

社会参加活動のコーディネート ～ 認知症地域推進員活動事例 ～

- 神奈川県大和市(市＋委託包括)「カフェから飛び立ち、得意を活かし地域でボランティア」
 - * 認知症カフェでつながった本人の得意なことを活かして地域で活躍する(ボランティア)を企画・実施
- 和歌山御坊市(直営包括)「JAや介護職員とともに、本人が地場産業の振興役に」
 - * 地域特産の花スターティスのPR?売り上げアップのために、本人たちが花の収穫、ノベルティづくり等に参加。
- 静岡県富士宮市(直営包括)「様々な段階の認知症の人が働き、稼ぎ、生きがいを持って」
 - * 地域で生まれた「認知本人が働き稼ぐ工房」とゆるやかにつながり、本人の社会参加や必要な支援とのつなぎ・調整を続けている
- 鳥取県鳥取市(委託 介護事業所)「認知症疾患医療センター等での相談役として」
 - * 認知症疾患医療センター等での本人による相談を本人と共に企画し、希望をもって生きていくための相談役として本人が活躍

「カフェから飛び立ち、得意を活かして、地域でボランティア活動」

神奈川県大和市 237,375人 高齢化率:23.7% (H31.4) 推進員14名 (市+委託包括)

【経緯】

- ・H29年から、認知症カフェ(みのりカフェ)を、認知症サポーターさんらとともに月1回開催。
- ・カフェを続けながら、次第に、本人ができること、得意なことで活躍してもらえる機会を増やしていった。
- ・どんなことをしたいか？本人に聴くと、カフェから飛び出し、地域でしたいことが多かった。



【社会参加活: 推進員の関わり】

カフェの中だけではなく、地域で活躍したい本人が活躍できるよう、地域でのチャンスを探し、調整。

⇒地域の納涼祭で、本人が模擬店の売り子役に。

誰よりも計算が早い！ 元銀行マンの本領を発揮。

活躍できたことに、本人・家族がとても喜び自信に。

⇒本人の可能性を地域に伝える。

⇒地域でスタートする高齢者会食会ボランティア説明会があることを知り、本人と参加。早速、ボランティアに。

* 元漁師のSさん。魚をさばくのが得意で、一人暮らしで調理も自分でやっている。

⇒本人が大活躍。家族は本人の生き生きさにおどろく。外に出さないようにしていた意識・関わり方が変わった。



「JAや介護の職員とともに、本人が地場産業の振興役に」

和歌山県御坊市 人口:23,397人 高齢化率 31.1%(H30.3) 推進員 5名(直営包括+介護事業所)

【経緯】

- ・推進員が、認知症の本人が地域で活躍できる機会がないか・・・アンテナをはっていた。
- ・市のJAの青年部の人たちのつぶやき「スターティス(市特産の花)の売り上げを伸ばしたい」をキャッチ。
⇒認知症の人の中に、かつて花づくりをしていた人やなじみのある人が多い。
なんとか、スターティスを活かした活躍の場をつくれぬか、JA職員と話し合いを重ねる。

【社会参加活動:推進員の関わり】

- ・「本人の働きたい」という声を聴きながら、スターティスの収穫(花摘み)や花束づくり、花を使ったPR用のノベルティ作りを次々企画。
- ・デイサービスや特養の職員とも相談・協力して、働きたい本人に声かけし、参加の機会をつくる。
- ・期待以上に多くの本人が参加。
集中的に作業をし、楽しみ、本人たちが活躍。
- ・認知症が軽度の人だけでなく、中重度の人でもできる仕事があり、参加する人の層が広がっている。
- ・JAの人たちや地域の人たちも、「認知症の人が活躍する姿」を目の当たりにし、意識が大きく変化。



「様々な段階の認知症の人が、働き、稼ぎ、生きがいを持って暮らす」

静岡県富士宮市 人口:132,651人 高齢化率 28.5%(H30.3) 推進員 3名(直営包括)

【経緯】

- ・「働きたい」という本人の声をもとに、その人のやりたいこと・得意なことに応じて、本人が働ける場を探し、関係者の理解協力を深めながら、収入を得ながらの働き先を市の行政が中心になって開拓してきている。

例: 観光案内所、地元のエコファーム、シルバー人材センター、介護事業所等



ファームで
動物の世話



シルバー人材
センターの仕事



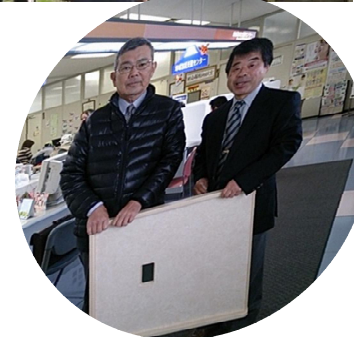
介護事業所
で手伝い

【社会参加活動: 推進員の関わり】

- ・市内で認知症の人が働き稼げる場として介護関係者が本人・家族と立ち上げた**工房**に、できるだけ足を運んで、本人や家族、運営者の声を聴くようにしている。
- ・その中から、本人が安心して働き続けるために必要なちょっとした支援や他機関(認知症疾患センター、包括、介護サービス等)との細かい調整を続けている。
- ・介護サービスを使う前段階の人から介護サービスを利用している段階の人まで幅広い層の人が、**製品作りや営業等、できることで活躍しながら稼ぎ、張り合いを持って暮らし続けている。**



本人ができる作業(木工製品づくり、営業等)を分担しながら。



元営業マン。
製品の営業に
回っている。

推進員は裏方としての支援・つなぎ・調整役

「認知症疾患医療センター等での相談役として」

鳥取県鳥取市 人口: 188,286人 高齢化率 8.1 % (H30.3) 推進員 2名 (市+介護事業所)

【経緯】

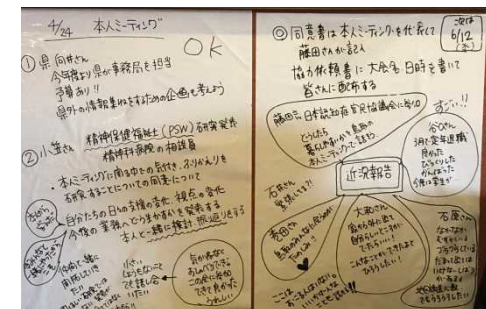
- ・推進員が、地元の本人とともに、本人ミーティングを開催してきている。
- ・本人ミーティングに参加する本人が、若い人から年配の人まで少しずつ増えており、本人同士が出会い集まると、本人ならではのさまざまな声、意見が語りあわれている。



本人たちが行きたい場で
本人ミーティング
(この日は市内の和食店)

【社会参加活動】

- ・本人から、「もっと診断後の早い段階の本人同士が出会う場が必要。一足先に元気になった本人が、次の人の相談役になりたい」という希望が出る。
- ・『推進員の相談支援体制作りの協働者として、本人に活躍してもらいたい』と考え、本人と一緒に行政担当者や推進員が企画を練る。
- ・できるだけ早く出会えるために、認知症疾患医療センター等の場で本人による相談活動ができるように本人と一緒に提案・調整を行う。
- ・地域支事業の一環として、**認知症疾患医療センター等で本人が月2回相談役として活躍中(本人に報酬あり)**。
- ・相談を通じて、専門医やかかりつけ医、関係者と共有した方がいいことを、本人が市職員とともに、医師らに会いに行き、話し合いを行っている。
- ・本人の集まりに医師も参加して下さるようになってきている。



毎回、本人たちが様々な
体験、意見、希望を語り
合う



本人が本人の
相談にのる。
互いに元気になる。前向きになれる。